

## Topics

### 磐田市でリノベーションまちづくり講演会開催 講師が「暮らしの質とエリア価値の向上が本質」と訴える

2月25日、磐田市で地域住民向けのリノベーションまちづくり講演会を開催し、市民らおよそ70人が参加しました。



講師は、愛知県・岡崎市で建築設計事務所を営む傍ら、家守としても活動する畑克敏氏。「空き家活用と エリアリノベーションと まちの戦略と それらをつなぐ自治再生」とのテーマで登壇しました。

畑氏は「戦後から高度経済成長期にかけて日本各地で進められてきた行政主導の大規模開発型のまちづくりが、人口減少や社会構造の変化の中で転換期を迎えている」と指摘。「新しい施設を建設することで都市の魅力を高める時代から、すでに地域に存在する資源を生かしながら価値を高めていく時代へと変わりつつある」とし、空き家や既存建物、公共空間などを活用する取組の重要性を強調しました。

その上で、「QURUWAエリア※1では、空き家の活用や公共空間の利活用などを組み合わせながら、小さな範囲で変化を生み出し、その動きを周辺へと波及させていく戦略が取られている」と、自身の活動エリアについて触れ、「敷地に価値があるのではなく、エリア全体の関係性の中で価値が生まれる。建物単体ではなく、一定の範囲をエリアとして捉えながらまちづくりを進める必要がある」と説明しました。

また、岡崎市では、不動産活用に加え、公共空間の活用やイベントの実施など、ソフトの面からもエリアの価値を高める取組が進められているとし、「中央緑道や公園といった公共空間を活用したマーケットの開催や、空き家を改修した店舗や拠点づくりなどを通じて、人が集まり滞在する環境をつくり出している」「こうした活動を通じて、地域に新たなプレイヤーが生まれ、まちづくりの担い手が増えていく」と、『ハード』『ソフト』の2軸を同時に進める必要性を訴えました。

畑氏は続いて『行政』『民間』の2軸にも触れ、「民間の活動の中から生まれたアイデアや取組を行政計画へ反映させる循環をつくるのが、公民連携の本質」と説明。「行政は制度や計画の整備を担い、民間は現場での実践を担うという役割分担を行いながら、双方が同じ方向性を共有して進めていくことが重要だ」としました。

講演では、「都市再生を100年単位で考える必要がある」との考え方も示され、「人口構造や社会の価値観は長い時間をかけて変化していくものであり、世代交代を見据えながらまちづくりを続けていくことが重要だ」と説明。短期的な成果だけを求めるのではなく、地域に関わる人々が長い時間軸の中で活動を続けていくことが、結果として地域の持続的な価値向上につながると語られました。

磐田市リノベーションまちづくり担当：大野寛達氏コメント

「岡崎市さんは民間と行政の役割分担がはっきりしていた。100年先の世代へまちを繋いでいくことを意識しながら、民間がより推進力を持たせるよう、行政も適切な支援をして行きたいと改めて感じた」

※1 QURUWAエリア：岡崎市が定めた主要回遊動線のこと。市はQURUWAエリア内の公共空間を舞台に公民連携プロジェクトを実施することで、人やものの動きを活発にし、まちの好循環をはかる計画を策定している。